

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第71号

2025年度活動テーマ：地域活動実践事例からご近所福祉のあり方を探る
 “ご近所”を語り合うと、そこには「創る福祉」「参画する福祉」が浮かび
 上がる「6月定例研究会」では、世代を超えたご近所のつきあいを議論

本会の2025年度活動テーマは、「ご近所福祉を検証する」を掲げて、4月から、身近なご近所を語り
 合っている。本会は、3つの活動基調を基に、活動に取り組んでいる。

【焼津福祉文化共創研究会の3つの活動基調】

- (1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代
 を超えて交流を図る。
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす。
- (3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してき
 た問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす。

また、今年度の活動の着眼項目は次の5つを掲げ、「静岡福祉文化を考える会」と協働で取り組む。

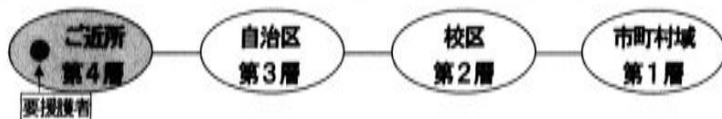
- ① 県内外の「地域実践活動事例」から、この6年間の「ご近所福祉の地域課題」を検証し、地域づ
 くりの議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。
- ② 「地縁組織と志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
- ③ 会員をはじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」醸成に努める。
- ④ 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
- ⑤ 地域福祉教育教材の「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法の開拓とご近所福祉の推進に努める。

6月14日に開催した6月定例会は、ゲストを迎えて、「ご近所福祉を検証⑭—世代を超えたご近所づ
 きあいのあり方—」について意見を交わした。

- ・最近の地域の動きの中で、この10年間で、コロナ禍を含め、集まる機会が極めて少なくなった。
 そのために、管内の住民との挨拶や会話を交わす機会がなくなっている。
- ・これまで地域によっては、慣例に従って、「寄合」の機
 会を持ってきたが、こうした環境も失われつつある。
- ・現在、環境整備作業として、区画整理後の大きな作業とし
 て、側溝掃除作業は計画的にかつ行政等との連携により取
 り組む課題がある。超高齢社会のいま、それぞれの状況を
 理解しながら、みんなで地域行事に取り組み、つながる地
 域づくりを心がけたい。
- ・こうした状況を踏まえて、「意図的に集まる仕組み」を作れ
 るように心がけたい。
- ・区画整理事業により、「集合住宅」も増えてきている。
 全ての世帯が、参画出来るコミュニティ規範に心掛けたい。



●ご近所から始まる福祉、ここが重要な課題解決の第一歩



- 地域福祉は「ご近所福祉」から始まる。ご近所をつなぐ努力
- ご近所は、常に地域リーダー（コミュニティ役員等）と連携を持つ
- ご近所で解決できない問題は、上層部に働きかける



今年もしっかりと願い事を短冊に！

6月とはいえ、猛暑続きの今日この頃。庭先には、「グロリオサ」「カラー」「ユリ」等が、鮮やかな色合いで住民を癒してくれているように開花している。専門家は、「人間を取り巻く4つの環境」に「人的環境(語れる環境)」「物的環境(住民同士が集う環境)」「空間的環境(ホッとする空間)」「自然的環境(和む環境)」を掲げている



シリーズ⑮ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「ふ」「へ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



ふ
ふれあいの濃さは、時間の長さではありません。**「さりげない日常会話(家庭機能)」**で「家庭力」を大いに向上させましょう。

ふれあいの濃さは、時間の長さではありません。**「さりげない日常会話(家庭機能)」**で「家庭力」を大いに向上させましょう。



へ
返事にも感謝の気持ち
つけ加え

「ハイ」という返事だけでは、相手にすべてが伝わりません。思いやりの気持ちも添えて、「常に、感謝の心」を忘れないようにしましょう。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(6/14~7/2) ※予定含

- 6/14 6月(第75回)定例研究会開催
協働団体:静岡福祉文化を考える会が、現在作成中の「30年誌」に、新たに「第9章 焼津福祉文化共創研究会との協働」を設けることを確認し、内容を検討する
- 6/16 6月(第75回)定例研究会議事録作成、ブログアップ依頼
- 6/17 菊川市会議において、本会及び考える会の活動状況報告(調査考察・かるた反響)
- 6/28 焼津市V連研修旅行(菊川市救助犬訓練センター)に2名参加
- 6/30 考える会30年誌執筆作成継続作業(残り第8章加工中)、「第9章」の意見確認する
- 7/02 「若者発ご近所福祉かるた」関連連絡調整実施
- 7/12 焼津市内の居場所関係者に「若者発ご近所福祉かるた」を貸出する。
- 7/19 7月(第76回)定例研究会開催

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し7年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。
〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード